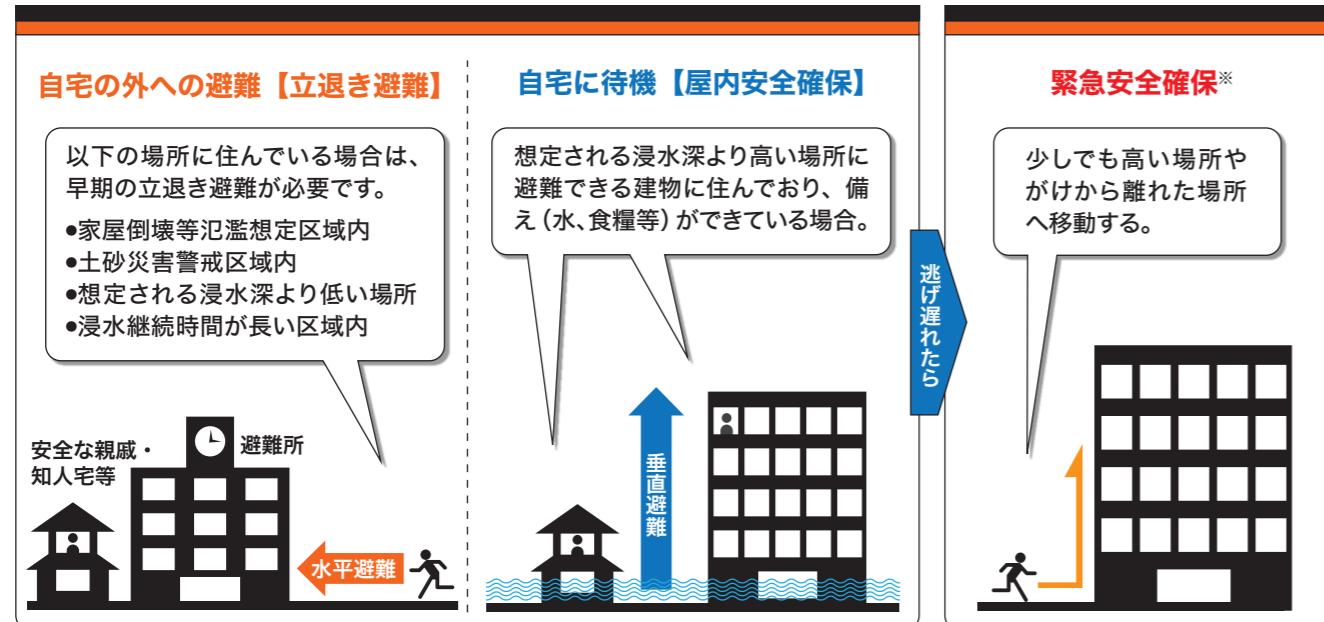


# 洪水時の適切な避難行動

## 避難行動の種類

避難行動には、以下のような種類があります。状況に応じて、適切な避難行動を取りましょう。  
避難は「**浸水が始まる前**」「**自主判断**」「**徒歩**」が大原則です。



\*緊急安全確保は、災害が発生・切迫した段階での行動です。やむを得ず立退き避難ができず、避難し遅れた居住者等がとる次善の行動です。  
そのため、本行動を安全に取ることができるとは限らず、また本行動を取ったとしても身の安全を確保できるとは限りません。  
警戒レベル4 避難指示までに全員避難してください。

避難とは「難」を「避ける」ことです。不特定多数の人が集まる避難所等では感染症の感染拡大のリスクが高まります。避難所に避難する以外の方法（分散避難）についても考えてみましょう。

### 分散避難

避難所が過密になることを防ぐために、状況に応じた「分散避難」という取り組みも重要なっています。

#### 自宅に留まる

- 自宅が洪水・土砂災害の危険性が低い。
- 想定される浸水深よりも高い場所に避難できる。
- マンション等の上層階に住んでいる。

#### 屋内安全確保

（自宅内の安全な場所へ移動）



#### 親戚・知人宅等へ避難

- 親戚・知人宅等の洪水・土砂災害の危険性が低い。
- 避難できる親戚・知人宅等がある。

#### 親戚・知人宅等に身を寄せる

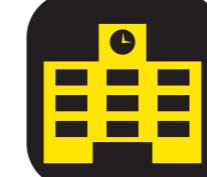
（親戚・知人等には日頃から相談しておきましょう）



#### 避難所への避難

- 自宅が洪水・土砂災害の危険性が高い。
- 避難できる親戚・知人宅等がない。

#### 岸和田市が開設した避難所へ



## 避難をする時の心得



## 地域での助け合い

### 肢体不自由な人には…

- 2人で抱える場合は、1人が背中側から両腕に手を入れて抱きかかえ、もう1人が両脚を持って移動しましょう。



### ヒナン



### 耳が不自由な人には…

- 口をハッキリと開け、相手に分かりやすいように話しましょう。
- 手話、筆談、身振り等の方法で正確な情報を伝えましょう。



### 目が不自由な人には…

- 災害時には、声をかけ情報を伝えましょう。
- 誘導する場合は、支援者のひじ辺りを軽く持ってもらい、半歩前をゆっくり歩きましょう。



### 外国人には…

- 身振りや手振りで話しかけ、孤立しないようにしましょう。
- この総合防災マップのP59～62はGoogle翻訳アプリを使用して、翻訳することができます。スマートフォンが使用できる状況であれば知りたい情報を翻訳して伝えましょう。